

平成28年度  
海田町教育委員会点検・評価報告書  
(平成27年度対象)

海田町教育委員会

## 目 次

教育委員会の活動状況	1
教育委員会の点検・評価制度の概要	5
<b>【学校教育課】</b>	
確かな学力の育成	6
学力向上事業	8
教育指導員配置事業	9
グローバル人材育成事業	10
豊かな心の育成	12
心の元気を育てる地域支援事業	14
青少年サポート事業	15
児童生徒の安心・安全の確保と質の高い教育環境の整備	17
小中学校安全管理事業	18
小中学校耐震補強事業	19
I C T環境整備事業	20
<b>【生涯学習課】</b>	
生涯学習の推進	21
公民館管理運営事業	22
公民館主催講座事業	23
図書館管理運営事業	25
図書館主催講座事業	27
蔵書整備事業	28
ふるさと館運営事業	29
人権教育事業	30
地域文化の継承と創造	31
クラシックコンサート事業	32
文化団体助成事業	33
旧千葉家運営事業	34
子供が健やかに育つ環境の整備	35
放課後子供教室事業	36
学校支援地域本部事業	37
ブックスタート事業	38
心豊かでたくましい青少年の育成	39
社会教育活性化支援事業	40
青少年育成事業	41
成人祭事業	42
スポーツのまち・海田づくり	43
生涯スポーツ振興事業	44
スポーツ団体等助成事業	45
総括	46
評価委員の点検・評価	47

## I 教育委員会の活動状況

### 1 教育委員会委員

本町教育委員会は、町長が町議会の同意を得て任命した教育長及び4名の教育委員により構成されています。平成28年3月31日現在の教育委員は、次のとおりです。

教育委員の区分	性別	内 訳
教育長	男	元教育関係者
教育長職務代理者	男	元報道関係者
委 員	男	教育関係者
委 員	女	元行政関係者
委 員	男	保護者

### 2 教育委員会会議の開催状況

定例会 12回, 臨時会 2回

### 3 教育委員会会議での審議状況

議題件数 62件

(内訳) 議案 26件, 報告協議 34件, 承認 1件, 同意 1件

開催日	議案・報告等	件 名
4月14日	議案第12号	海田町社会教育委員の委嘱について
	議案第13号	海田公民館運営審議会委員の委嘱について
	報告協議第2号	教育長の職務代理者の指名について
	承認第1号	専決処分をした事件の承認について(平成27年4月臨時議会補正予算案)
5月12日	議案第14号	海田町スポーツ推進委員の委嘱について
	報告協議第3号	海田公民館整備基本計画案について
	報告協議第4号	生涯学習課年間スケジュールについて
	報告協議第5号	平成26年度小中学校卒業生の進路状況について
	報告協議第6号	各行事の開催及び結果等について
6月16日	議案第15号	平成28年度使用中学校教科用図書の採択基本方針について
	議案第16号	海田町子供の読書活動推進計画(第二次)について
	報告協議第7号	平成27年度学校経営計画について
	報告協議第8号	平成27年6月議会について
	報告協議第9号	海田公民館整備基本計画について
	報告協議第10号	各行事の開催及び結果等について

7月14日	報告協議第11号	平成27年度「基礎・基本」定着状況調査の結果について
	報告協議第12号	児童生徒の健全育成に係る相互連絡制度に関する協定書の締結について
	報告協議第13号	海田公民館整備基本計画について
	報告協議第14号	各行事の開催及び結果等について
8月18日	議案第17号	平成27年9月議会補正予算案について
	議案第18号	平成28年度使用中学校教科用図書の採択について
	議案第19号	平成28年度使用特別支援学級教科用図書の採択について
	議案第20号	海田町スポーツ推進委員の委嘱について
	報告協議第15号	海田公民館の整備について
	報告協議第16号	各行事の開催及び結果等について
9月28日	議案第21号	町職員の人事異動について
	報告協議第17号	平成27年9月議会について
	報告協議第18号	学力調査の結果について
	報告協議第19号	海田町学校教育意識調査の結果について
	報告協議第20号	各行事の開催及び結果等について
10月13日	報告協議第21号	平成27年度海田町教育委員会点検・評価について
	報告協議第22号	各行事の開催及び結果等について
11月10日	議案第22号	平成27年12月議会補正予算案について
	報告協議第23号	各行事の開催及び結果等について
12月15日	議案第23号	海田町文化財審議会委員の委嘱について
	報告協議第24号	平成27年12月議会について
	報告協議第25号	特別支援学級の状況について
	報告協議第26号	今後の海田公民館の再整備の方向性について
	報告協議第27号	各行事の開催及び結果等について
1月26日	議案第1号	平成27年海田町教育委員会点検・評価(平成26年度対象)について
	議案第2号	海田町立学校運動場管理運営条例の一部改正について
	報告協議第1号	海田町就学援助費支給要項の一部改正について
	報告協議第2号	海田町立小・中学校修学旅行実施基準の一部改正について
	報告協議第3号	各行事の開催及び結果等について
	報告協議第4号	平成28年夢未来ビジョンについて
2月16日	議案第3号	平成28年3月定例議会補正予算案について
	議案第4号	平成28年度当初予算案について
	報告協議第5号	各行事の開催及び結果等について

3月7日	報告協議第6号	平成28年3月議会について
	同意第1号	教育長の辞職について
3月16日	議案第5号	県費負担教職員の人事異動について
	報告協議第7号	教育長の任命の同意について
3月22日	議案第6号	平成28年度夢未来ビジョンについて
	議案第7号	平成28年度使用特別支援学級用教科用図書の採択変更について
	議案第8号	海田町教育支援委員会規則の一部を改正する規則の制定について
	議案第9号	海田町立小中学校の管理及び学校教育法の実施に関する規則の一部を改正する規則の制定について
	議案第10号	海田町立学校施設の目的外使用に関する規則の基準について
	議案第11号	海田町スポーツ推進委員の委嘱について
	議案第12号	海田町社会教育委員の委嘱について
	議案第13号	海田町公民館運営審議会委員の委嘱について
	議案第14号	町職員の人事異動について
	報告協議第8号	各行事の開催及び結果について

#### 4 その他の主な活動

##### (1) 会議等への出席

日時	名称	出席者	場所
4月6日	安芸郡4町教育長会議	教育長	坂町
4月13日 1月27日	広島県市町教育長会議	教育長	広島市
5月14日 7月22日 12月16日	西部教育事務所管内 教育長・部課長会議	教育長 教育長	呉市 広島市
5月15日	広島県町教育長会定期総会	教育長	広島市
5月21日 5月22日	全国町村教育長会定期総会	教育長	東京都
5月27日	広島県市町教育委員会連合会定期総会	委員	広島市
7月3日 10月19日 2月26日	広島県女性教育委員研修会	委員(2名)	広島市 世羅町 広島市
7月23日	中国地区市町村教育委員会連合会研修大会	委員	岡山県

日 時	名 称	出 席 者	場 所
8月20日 8月21日	中国五県町村教育長研究大会	教育長	島根県
11月12日	広島県市町教育委員会教育委員研修会	委員	広島市
11月20日	広島県町教育長会研修会	教育長	坂町

(2) 主な式典・行事等

日 時	内 容	会 場
4月1日	教職員辞令交付式	ひまわりプラザ
4月6日	入学式	各小学校
4月7日	入学式	各中学校
1月10日	成人祭	海田公民館
3月12日	卒業式	各中学校
3月18日	卒業式	各小学校
3月31日	退職者辞令交付式	海田町役場

(3) 公開研究会等

日 時	内 容	会 場
7月8日	町主催研修 ・「これからの道德教育」	海田中学校
7月24日	町主催研修 ・「発達障害のある児童生徒の授業づくり」	ひまわりプラザ
7月28日	グローバルキャンプ	ふるさと館
8月3日	町主催研修 ・「織田幹雄は世界人」 ・タブレットを活用した魅力ある授業づくり中間報告	ひまわりプラザ
8月19日	グローバル交流活動	旧千葉家住宅等
8月28日	町主催研修 ・「支援を要する子どもたちに教育の立場からできること」	ひまわりプラザ
9月15日	町主催研修 ・「これからの広島県教育の方向 －主体的な学びの創造に向けて－」	海田西中学校
10月21日	町主催研修 ・「グローバル社会で求められる人材とは」	海田東小学校
11月19日	町主催研修 ・「新たな英語教育に向けての外国語活動、英語科の指導の在り方 －英語を用いた言語活動の充実を通して－」	海田南小学校

## 教育委員会の点検・評価制度の概要

### 1 目的

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 26 条の規程により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、学識経験者の知見を活用した自己点検及び評価を行い、その結果を議会に報告するとともに住民に公表することとされています。

この点検・評価は、効果的な教育行政の推進に資するとともに、町民に対する説明責任を果たすことを目的としています。

### 2 対象年度

平成 27 年度

### 3 評価の実施時期

平成 28 年 5 月～ 内部評価

平成 28 年 9 月 外部評価 評価者：広島大学大学院教育学研究科  
教授 曾余田 浩史

### 4 評価対象及び評価基準

本町では、平成 23 年度から第 4 次総合計画に基づき施策を展開しています。それに基づき教育委員会が実施した事業のうち重点施策と位置付けた事業を評価対象としました。

#### 評価基準

A…十分に達成している（達成率 80%以上）

B…おおむね達成しているが、改善の余地がある（達成率 50%以上～80%未満）

C…事業内容の見直し、改善が必要（達成率 50%未満）

施策

確かな学力の育成

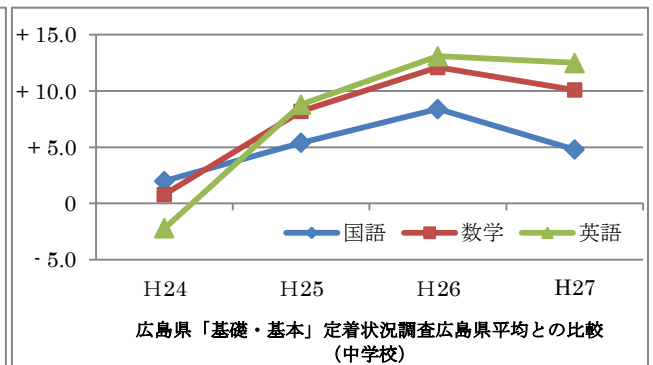
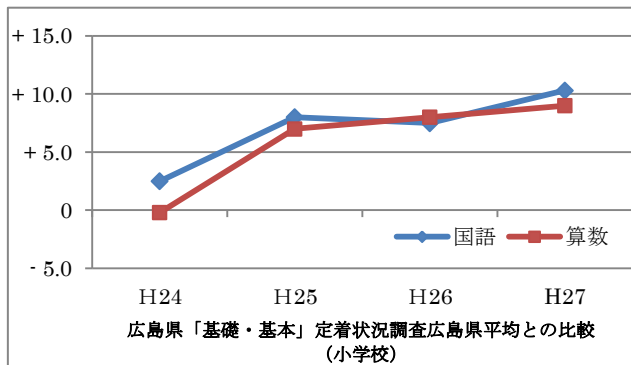
取組と成果

平成 27 年度は、広島県が策定した「広島版『学びの変革』アクション・プラン」に即し、児童生徒の主体的な学びによる確かな学力の定着を目指し、次のような取組を行った。

- (1) 教師がより質の高い授業ができるよう研修を実施し、指導力の向上を図った。
- (2) 児童生徒の状況に応じたきめ細かな授業が行えるよう、人員を配置した。
- (3) 外国語活動や外国語科の充実により、国際化社会へ対応力の向上を図った。

広島県「基礎・基本」定着状況調査の広島県平均との比較

	教科	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
小学校	国語	+2.5	+8.0	+7.5	+10.3
	算数	-0.2	+7.0	+8.0	+9.0
中学校	国語	+2.0	+5.4	+8.4	+4.8
	数学	+0.8	+8.2	+12.1	+10.1
	英語	-2.2	+8.8	+13.1	+12.5



重点的に取り組んだ事業

事業名	内容	評価	頁
学力向上事業	学力向上推進委員が中心となり児童生徒の学力調査結果について成果と課題を分析し、その内容を踏まえた授業改善を行う。	A	8
教育指導員配置事業	各学校の実態に応じて非常勤講師を配置し、児童の状況に応じたきめ細かな指導を行う。	A	9
グローバル人材育成事業	外国語活動や外国語科英語を中心に、児童生徒の語学力の向上、コミュニケーション能力、主体性・積極性、異文化理解の精神等を育成する。	A	10・11



## 評価

平成 25 年度までは、即効性のある取組として各校に対して教育委員会主導で取組を進め、平成 26 年度は、少しずつ学校現場主導の割合を高めて取組を進めてきた。平成 27 年度も同様に「学校現場主導」を前面に押し出して取組を進め、更に広島県が策定した「広島版『学びの変革』アクション・プラン」に即し、児童生徒の主体的な学びによる確かな学力の定着を目指し授業改善を進めてきた中で、教職員の意識は高まりを見せ、各種取組の質も高まった。そうしたことの積み重ねで、広島県「基礎・基本」定着状況調査の結果は、すべての教科において、県平均を上回ることができた。今後は更なる向上のため、児童生徒の学習への意欲を高めることも視野に入れ、すべての学校において、全教科・全分野で県平均を上回ることを目指す。

<b>事業の目的</b>
児童生徒の学力の向上を図る。
<b>事業内容</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上推進委員が中心となり児童生徒の学力調査結果について成果と課題を分析し、その内容を踏まえた授業改善を行う。</li> <li>・小中連携による授業観察・実践交流等を通じた授業改善を行う。</li> <li>・小中学校理科担当教員を対象に、実践的な研修を実施し、理科教育の一層の充実を図る。</li> <li>・管理職・主任等による授業観察を通して、教職員個々の能力・適性に応じた継続的な指導助言を行う。(海田式アクション・リサーチ)</li> </ul>
<b>平成27年度目標</b>
町内教職員で教育研究成果を共有することで、町全体の教育研究の質を高め、児童生徒の確かな学力の向上に資する。
<b>評価指標</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・広島県「基礎・基本」定着状況調査結果 各教科 県平均 +5</li> <li>・児童生徒の主体的な学習を進める上で重要となってくる「自己有用感」「自己肯定感」に関する項目(全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙「自分にはよいところがある」)での肯定的回答の割合の県平均との差 小学校 +2.0 中学校 +5.0</li> <li>・全国学力・学習状況調査の学校質問紙における、学校全体の学力傾向や課題の共有に関する項目での肯定的回答の割合 95%</li> <li>・各中学校区における連携担当者会 年間 60回</li> <li>・海田式アクション・リサーチ 教職員一人当たり年間 3回</li> </ul>
<b>事業評価</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・広島県「基礎・基本」定着状況調査結果            小学校 国語+10.3 算数+9.0 理科+13.0            中学校 国語+4.8 数学+10.1 理科+1.7 英語+12.5</li> <li>・全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙「自分にはよいところがある」と答えた児童生徒の割合の県平均との差 小学校 -6.8 中学校 +2.0</li> <li>・全国学力・学習状況調査の学校質問紙「学校全体の学力傾向や課題について、全教職員の間で共有しているか」の肯定的回答の割合 小学校 100% 中学校 100%</li> <li>・各中学校区における連携担当者会            海田中学校区 25回 海田西中学校区 20回 中学校校区合同 23回</li> <li>・海田式アクション・リサーチ 各学校とも教職員一人当たり年間 3回実施</li> </ul>
<b>今後の方策</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成27年度の事業の精選を行い、広島県が策定した「広島版『学びの変革』アクション・プラン」を更に推進するためそれぞれの研修内容の見直しを図り、より質の高いものへと高めていく。また児童生徒の主体的な学びを促す「課題発見・解決型」の授業づくりのための実践的な研修を拡充し、一層の充実を図る。また、児童生徒に達成感を感じさせる取組、一人一人をしっかりと評価するような授業づくりを進め、児童生徒の自己肯定感を高めていく。</li> </ul>

事業の目的

各学校の課題を改善するために、特に必要と認められる非常勤講師を配置することにより、児童生徒の状況に応じたきめ細かな指導を行い、生活習慣の確立、児童生徒の基礎学力の定着を図る。

事業内容

各学校の実態に応じて非常勤講師を配置する。

平成27年度目標

児童生徒の学力向上と各学校の課題の改善を目指す。

評価指標

広島県「基礎・基本」定着状況調査結果 各教科 県平均 +5

事業評価

- ・広島県「基礎・基本」定着状況調査の県平均との比較

	教科	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
小学校	国語	+2.5	+8.0	+7.5	+10.3
	算数	-0.2	+7.0	+8.0	+9.0
中学校	国語	+2.0	+5.4	+8.4	+4.8
	数学	+0.8	+8.2	+12.1	+10.1
	英語	-2.2	+8.8	+13.1	+12.5

- ・教育指導員の配置により、教材研究を行う時間や児童生徒と向き合う時間を確保することができた。

【配置状況】

海田小 (2名) 3~6年(音楽) 2年(図工) 1・2年(算数)  
 海田東小 (2名) 2年(国語・算数) 6年(国語・算数)  
 海田西小 (2名) 1~3年(音楽) 5・6年(算数・家庭科) 4~6年(総合)  
 海田南小 (2名) 2年(国語) 5年(理科) 6年(家庭科) 特別支援学級  
 海田中 (3名) 数学 理科 保健体育  
 海田西中 (1名) 外国語

今後の方策

- ・学校の課題に応じて柔軟に対応するため、配置状況の見直しを図りながら、平成28年度も引き続き継続する。
- ・学力補充や生徒指導等の学校の課題を把握し、教育指導員を効果的に配置する。
- ・学校の課題に応じた人材を確保するため、報酬単価の引き上げを検討する。

<p><b>事業の目的</b></p> <p>変化の激しいこれからの社会において、様々な分野で活躍できるグローバル人材を育成するために、外国語活動や外国語科英語を中心に、児童生徒の語学力の向上を図るとともに、コミュニケーション能力、主体性・積極性、異文化理解の精神等の育成に資する。</p>														
<p><b>事業内容</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語指導助手（ALT）や日本人外国語指導助手（JALT）とのチーム・ティーチングによる外国語活動や外国語科英語の授業の充実を図る。</li> <li>・異なる文化の人との交流を通して、相互理解を深めるとともに、目的や状況に応じたコミュニケーション能力の育成を図る。</li> <li>・外部検定試験を活用して、生徒の英語力を客観的に把握、分析、検証し、日常の授業改善に生かす。</li> </ul>														
<p><b>平成27年度目標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語教育の充実を図り、児童生徒の語学力の向上及び外国の人と英語を使ってコミュニケーションを図ろうとする意欲の向上を目指す。</li> </ul>														
<p><b>評価指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広島県「基礎・基本」定着状況調査（外国語科英語）の正答率：県平均 +8</li> <li>・小学校6年生対象の個人面接において、英語による適切な応答ができる児童の割合：80%以上</li> <li>・広島県「基礎・基本」定着状況調査の児童生徒質問紙における設問「外国の人とコミュニケーションを図りたい」肯定的回答率：65%以上</li> <li>・グローバル・キャンプ事後アンケートにおける設問「もっと英語を勉強したくなった」「外国の人や文化に興味をもった」肯定的回答率：80%以上</li> <li>・中学校卒業段階で英検3級程度以上を達成した生徒の割合：45%以上</li> </ul>														
<p><b>事業評価</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広島県「基礎・基本」定着状況調査（外国語科英語）の県平均との比較 <table border="1" data-bbox="300 1570 1082 1675"> <thead> <tr> <th>H24年度</th> <th>H25年度</th> <th>H26年度</th> <th>H27年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>-2.2</td> <td>+8.8</td> <td>+13.1</td> <td>+12.5</td> </tr> </tbody> </table> </li> <li>・小学校6年生対象の個人面接において、英語による適切な応答ができる児童の割合（%） <table border="1" data-bbox="300 1760 1158 1850"> <thead> <tr> <th>How many apples?</th> <th>Do you like sushi?</th> <th>Can you swim?</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>91.4</td> <td>94.4</td> <td>81.3</td> </tr> </tbody> </table> </li> </ul>	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	-2.2	+8.8	+13.1	+12.5	How many apples?	Do you like sushi?	Can you swim?	91.4	94.4	81.3
H24年度	H25年度	H26年度	H27年度											
-2.2	+8.8	+13.1	+12.5											
How many apples?	Do you like sushi?	Can you swim?												
91.4	94.4	81.3												

- ・広島県「基礎・基本」定着状況調査の児童生徒質問紙における設問「外国の人とコミュニケーションを図りたい」肯定的回答率（％）

	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
小学校	59.9	69.2	68.0	72.4
中学校	49.0	51.4	55.2	68.3

- ・グローバル・キャンプ事後アンケートにおける肯定的回答率（％）

	もっと英語を勉強したくなった	外国の人や文化に興味をもった
小学校	78.9	89.4
中学校	88.4	83.3

（対象人数：小学校 19名 中学校 39名）

- ・中学校卒業段階で英検 3 級程度以上を達成した生徒の割合：41.9%

#### 今後の方策

- ・小学校においては、平成 30 年度より先行実施（平成 32 年度完全実施）される、中学年外国語活動の開始及び高学年の英語教科化に向けた授業づくりを行う。
- ・中学校においては、文法や語彙等の知識の習得にとどまらず、それらの知識を活用してコミュニケーションが図れるよう、4 技能の総合的な能力の習得を目指して、授業改善に取り組む。
- ・グローバル・キャンプ等を通して、異なる文化の人との相互理解を深めるとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度や英語によるコミュニケーション能力の育成を図る。
- ・年 3 回英語能力判定テストを実施し、生徒の英語力を客観的に把握、分析、検証し、日常の授業改善に生かす。

## 施策

豊かな心の育成

### 取組と成果

平成 27 年度は、心豊かでたくましい人間の育成を目指し、次のような取組を行った。

- (1) 「心の元気を育てる地域支援事業」の全町展開を掲げ、海田中学校区、海田西中学校区の両中学校区で実施した。
- (2) 読書活動を推進するとともに、体験活動として毎年実施している職場体験に加え、山・海・島体験活動を行った。
- (3) 不登校や問題行動に対応するため、適応指導教室の設置や、教育相談員の配置を行った。

	小学校				中学校			
	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
暴力行為(件)	1	0	3	2	0	1	24	19
いじめ(件)	1	5	0	7	2	4	10	4
不登校(人)	3	9	10	7	28	32	31	39

### 重点的に取り組んだ事業

事業名	内容	評価	頁
心の元気を育てる地域支援事業	児童生徒が他者、社会、自然・環境とのかかわりの中で達成感や自己の成長を実感し、自尊感情が高まる3校合同あいさつ運動とクリーン活動を全町展開に拡充し、継続的に実施する。	A	14
青少年サポート事業	家庭環境や発達障害などの様々な課題を抱える児童生徒を支援するため、個別指導による基礎学力の補充や教育相談等を行い、学校と連携しながら、学級への復帰を支援する。	A	15・16

### 評価

平成 27 年度から、「心の元気を育てる地域支援事業」を全町展開に拡充した。継続的な3校合同あいさつ運動やクリーン活動、また、町内 6 小中学校合同で合同挨拶運動を実施するなど、児童生徒が他者、社会、自然・環境とのかかわりの中で達成感や自己の成長を実感し、自尊感情を高めることができた。

中学校の暴力行為について、平成 26 年度 24 件が平成 27 年度は 20 件とほぼ横ばいであった。状況としては、特定の生徒数名が複数回起こしたものであり、当該生徒については、保護者、専門機関とも連携し継続して指導を行った。

中学校のいじめ認知件数について、平成 26 年度 10 件であったのに対して 4 件と減少した。発生した事案について、担任、生徒指導主事等複数で適切に対応し、全て解決している。

また、適応指導教室に通所していない不登校傾向にある児童生徒への支援に加え、学校へは登校できているが教室へ復帰できていない児童生徒に対応するため、平成 27 年度も引き続き青少年指導員を海田中学校へ常駐させた。また、平成 27 年度途中より適応指導教室指導員を海田西中学校を中心に関わらせたことにより、両中学校を中心に、学校内の適応指導教室から教室へ復帰できた生徒は昨年度の 30%から、今年度は 38.5%と増加した。しかし、町全体としての不登校児童生徒数は増加となった。

平成 26 年度の反省をもとに、月 1 回教育相談員、適応指導教室指導員、教育委員会事務局の 3 者間で情報交換を行い、個々の状況の把握をはじめ、個に応じた学力補充等、適応指導教室在籍児童生徒への具体的な支援の仕方等を協議し、その内容を学校へ伝え、指導に活かしてもらうようにした。

今後も児童生徒や保護者を対象にした更なる教育相談活動を学校と密に連携しながら、充実させていく。

事業の目的
学校・家庭・地域社会が一体となった体験活動を実施する中で、児童生徒の自尊感情を高め、社会参加の意欲や態度等豊かな心の育成を図る。
事業内容
「あいさつ ふれあい 夢いっぱい 海田町」の地域まるごと宣言のもと、児童生徒が家庭や地域社会とのかかわりの中で達成感や自己の成長を実感し、自尊感情が高まる各中学校区合同あいさつ運動とクリーン活動を継続的に実施する。
平成27年度目標
児童生徒の自尊感情や地域社会への参画意識の向上を図る。
評価指標
体験活動前後の児童生徒アンケートにおいて ① 自尊感情の向上に係る項目の肯定的割合の上昇 ② 社会参画意識の向上に係る項目の肯定的割合の上昇
事業評価
①自尊感情の向上 小学校 活動前 87.8% 活動後 88.0% 中学校 活動前 73.3% 活動後 74.4% ②社会参画意識の向上 小学校 活動前 88.6% 活動後 86.4% 中学校 活動前 72.9% 活動後 73.0% ・海田西中学校区を中心とした活動を町内全域に広げ、町全体の取組とすることができた。 ・継続した合同あいさつ運動やクリーン活動等の体験活動を通して、児童生徒の自尊感情や社会参画意識を高い水準で保つことができた。 ・他のアンケート項目の「思いやり」「規範意識」の肯定的評価はいずれも90%以上で、ボランティア活動やあいさつ運動を通して、多くの人と接し、協力しあったことがこの結果につながったと考える。 ・海田西中学校区の2年間の取組を参考として、海田中学校区の活動を始めたため、スムーズなスタートを切ることができた。
今後の方策
・これらの取組が町内全域の恒例行事となるよう、保護者、地域へ積極的に発信するとともに、児童生徒によるあいさつ運動を積極的に進める。 ・今後も継続して地域社会への参画の視点から、引き続き植栽活動に取り組み、栽培した植物を地域へ寄贈する。 ・児童生徒主体となって企画・運営する取組を推進し、自尊感情の更なる向上を図る。



事業の目的

個別指導による基礎学力の補充や教育相談等を行い、学校と連携しながら、様々な課題を抱える児童生徒の学校・学級復帰を支援する。

事業内容

- ・ 公共施設の一室に町内適応指導教室を設置し、教員免許所持者を指導員として配置する。
- ・ 教育相談や学力補充等を通して、児童生徒の学校・学級復帰を支援する。
- ・ 教職員や適応指導教室指導員、教育相談員の連携により、相談・指導活動を実施する。

平成27年度目標

教育相談の充実や、適応指導教室等における児童生徒への学力補充により、不登校傾向にある児童生徒や適応指導教室通室者を学校・学級復帰させる。

評価指標

- ・ 不登校傾向にある児童生徒に対する教育相談件数
- ・ 適応指導教室通室者に対する学級復帰者の割合 30%
- ・ 不登校児童生徒の状況を把握するための4者（学校、教育相談員、適応指導教室指導員、教育委員会事務局）による定期的な連絡体制の確立

事業評価

教育相談件数

	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
相談件数（件）	1,468	1,045	1,010	1,895

- ・ 中学校に不登校傾向の生徒が多いことから、平成26・27年度途中より、適応指導教室指導員、教育相談員を両中学校に常駐させた。そのため、生徒の様子や気持ちをしっかりと把握することができた。中学3年生においては、進路についての相談も行われ、進路保障の一助となった。
- ・ 相談件数については、常駐することでいつでも相談することができるようになり、昨年度よりも大幅に相談件数が増加した。  
適応指導教室通室者のうち、学級に復帰した児童生徒の割合 5人/13人（38.5%）
- ・ 平成26年度の反省をもとに、月1回教育相談員、適応指導教室指導員、教育委員会事務局の3者間の情報交換、協議を行い、個々の状況の把握をはじめ、個に応じた学力補充等、適応指導教室在籍児童生徒への具体的な支援の仕方等を学校へ伝え、指導に活かせるように改善した。
- ・ 適応指導教室指導員を海田西中学校に常駐させ、学校内適応指導教室で指導、支援に当たらせるとともに、必要に応じて他の学校に訪問し、指導、支援にあたらせたため、継続的な支援が行えるようになった。

#### 今後の方策

- ・学校が組織している不登校防止委員会に適応指導教室指導員を参加させ、支援を必要とする児童生徒の情報交換及び支援の方向性を確認する。
- ・引き続き不登校傾向児童生徒の状況を教育相談員、適応指導教室指導員、教育委員会事務局の3者で情報共有し、学校に対して児童生徒への指導・支援体制を整えるよう指導・助言する。

## 施策

### 児童生徒の安心・安全の確保と質の高い教育環境の整備

#### 取組と成果

平成 27 年度は、児童生徒が安心して学校生活を送れるよう、次のような取組を行った。

- (1) 学校施設の安全を確保するため、耐震補強工事などの施設整備を行った。
- (2) 学校安全ボランティアとして地域の協力を得て見守り活動を実施した。
- (3) 保護者や地域の方に緊急メールとして不審者情報や事件・事故情報を配信した。
- (4) 不審者の侵入を抑止するため、学校に防犯カメラを設置した。
- (5) 児童生徒の学習内容理解を支援するため、ICT 機器を整備した。

#### 学校施設の耐震化率 (%)

	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
耐震化率	70.8	75.0	87.5	100

※町内 6 校(24 棟)の内、耐震性のある建物 9 棟、H21 年度末までに耐震化済 2 棟、H22 年度に耐震化 4 棟

#### 学校安全ボランティア登録者数 (人)

	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
登録者数	114	136	98	98

#### 重点的に取り組んだ事業

事業名	内容	評価	頁
小中学校安全管理事業	登下校時の学校安全ボランティアを募集し、保険をかけるとともに帽子・腕章を配布し、活動環境を整備する。また、緊急メール配信システムを活用し、不審者情報等の配信を行う。これに加え、防犯カメラを設置し、不審者の侵入の抑止に努める。	A	18
小中学校耐震補強事業	平成 27 年度で耐震化率を 100%とするため、計画的に耐震補強工事、設計業務を行う。	A	19
ICT 環境整備事業	ICT 環境の充実により、質の高い教育活動を展開する。	A	20

#### 評価

児童生徒が安心して学校生活を送れるよう、教育環境の整備を進めてきた。

学校安全ボランティアについては、多くの方が高齢者という現状ではあるが、ボランティア登録をせずに自主的に見守りをしてくださる地域の方の協力もあり、今後も現状を維持しながら、引き続き児童生徒の安全確保に努めていくことが必要である。

学校施設整備については、耐震補強工事等により平成 27 年度で耐震化率が 100%となった。

今後も、必要に応じて、施設の修繕等を行っていく。

平成 27 年度からタブレット端末を各学校に整備し、授業展開の工夫等の研究を行った。

事業の目的
児童生徒の安全確保及び学校の安全管理を徹底する。
事業内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 町内の小学校新1年生全員に防犯アラームを支給する。</li> <li>・ 学校安全ボランティアを募集し、ボランティア保険をかけ、帽子・腕章等を配布し、通学路の見回りや、登下校時の児童生徒の見守りを行う。</li> <li>・ 緊急メール配信システムを活用し、不審者情報等の配信を行う。</li> <li>・ 新たに、校門、建物入り口等に防犯カメラを設置する。</li> </ul>
平成27年度目標
学校安全ボランティア等の地域の方の協力や防犯カメラの設置等により、登下校時の交通事故や学校での事件を未然に防ぐ。
評価指標
児童生徒や学校に対して、事故や犯罪から守るための対策を実施し、安全の確保ができたか。
事業評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 町内の小学校新1年生に防犯アラームを支給し、携帯するよう学校だより等で周知を図った。</li> <li>・ 学校安全ボランティアや、自主的に見守りをしてくださった地域の方の活動により、児童生徒が安全に登下校できた。</li> <li>・ 緊急メールの配信により、登録者に対し、速やかに必要な不審者情報等の情報配信を行った。</li> <li>・ 小学校での不審者目撃情報が1件あったが、児童への直接的な声かけや接触はなく、防犯カメラの設置等により、不審者侵入の抑止につながった。</li> </ul> <p>【参考】防犯カメラ新規設置台数 小学校 16台、中学校 8台          学校安全ボランティア登録者数 98人、緊急メール配信登録者数 1,425人</p>
今後の方策
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後も継続して、緊急メールを配信し、不審者情報だけでなく、事件・事故情報などの情報提供・注意喚起を行う。</li> <li>・ 学校安全ボランティアや地域の方の協力を得ながら、登下校や学校生活全般に関して、児童生徒にとって安全安心な環境づくりを行っていく。</li> <li>・ 学校での安全教育の見直しを行い、児童生徒1人1人の防犯等に対する意識を高めることも必要である。</li> </ul>

事業の目的				
学校施設の耐震化を計画的に行い，安全な学習環境を整備する。				
事業内容				
学校施設の耐震化について，耐震性のない建物（Is 値 0.7 未満）の耐震補強工事等を行う。				
平成 27 年度目標				
・平成 26 年度末時点で耐震性のない建物が 3 棟あり，このすべてについて耐震補強工事を行う。				
評価指標				
指標は，耐震化率とし，耐震化率を平成 27 年度までに 100%とするため，整備計画に基づいて耐震化を進める。				
	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
全棟数①	24	24	24	24
耐震性のある棟数②	17	18	21	24
耐震性のない棟数	7	6	3	0
耐震化率（②/①）	70.8%	75.0%	87.5%	100%
※各年度の末日時点				
事業評価				
・耐震化ができていなかった残り 3 棟（海田南小学校体育館，海田中学校北校舎・中校舎）について耐震化ができ，全ての学校施設の耐震化が完了した。				
今後の方策				
今後非構造部材の耐震化について検討し，順次進めていく。				

事業の目的

ICT 環境を整備し、ICT 教材の開発等、タブレットを活用した教師の授業力の向上を図り、児童生徒の学習内容理解を支援する。

事業内容

- ・タブレット等の ICT 機器を各小中学校に整備する。
- ・ICT 機器等を効果的に活用する授業づくりと「広島版『学びの変革』アクション・プラン」に即した児童生徒の主体的な学びによる確かな学力の定着を図るためのカリキュラムを作成する。

平成27年度目標

- ・小中学校の特別支援学級（全 13 学級）を中心に ICT 機器を整備し、効果的な活用を行う。
- ・タブレットの様々な活用方法を研究し、各校で実践を行い、成果と課題を集約する。
- ・教諭等が年に 1 回以上タブレットを活用した授業を行い、その学習指導案または実践事例報告書を作成する。

評価指標

- ・ICT 機器の整備状況 特別支援学級への配布台数 100%
- ・タブレットを小中学校の授業で活用した教諭の割合 25%
- ・町内研修会の開催状況

事業評価

- ・ICT 機器の整備状況

学校名	海田小	海田東小	海田西小	海田南小	海田中	海田西中
学校別台数 (特別支援学級配布台数)	3 (1)	4 (3)	3 (2)	4 (2)	9 (3)	6 (1)

特別支援学級への配布割合 100%

映像投影機器：各学校タブレットと同数 プロジェクター：海田中 9 台 海田西中 6 台

特別支援学級を中心にタブレットを整備し、タブレットを有効に活用するための映像投影機器及びプロジェクターを整備した。

- ・タブレットを小中学校の授業で活用した教諭の割合 41.2%  
全教科・時間において活用が見られた。(延べ実践事例報告書数 58 件)
- ・研修会の開催 7 回

ICT 推進研修会での外部講師やサテライト研修の活用により、ICT 機器の有効な活用方法を学ぶとともに、各学校のタブレット活用実践における成果と課題を報告する機会を設けた。

今後の方策

- ・平成 27 年度の活用事例や成果と課題から、効果的な活用方法の研究を進める。
- ・特別支援学級においては、タブレット等の活用による視覚的な支援が授業において特に有効であるため、特別支援学級を中心に、授業活用を推進し、カリキュラム作成へ繋げていく。
- ・積極的に ICT 機器を使用できるよう、引き続き、タブレット等を購入し、ICT 機器を整備する。  
(H28 購入予定台数 小学校 14 台、中学校 7 台)

## 施策

### 生涯学習の推進

#### 取組みと成果

平成 27 年度も引き続き、「いつでも・どこでも・だれでも」学習でき、その学習成果が適切に評価・活用されることを目指し、次のような取組みを行った。

- (1) 住民が生涯にわたって学んでいけるよう、学習ニーズに対応しながら、さまざまな場面において住民の学習を支援し、幅広い世代に対して学習する機会を提供した。

#### 重点的に取り組んだ事業

事業名	内容	評価	頁
公民館管理運営事業	青少年育成講座及び定期講座等の、住民の自発的な生涯学習活動を支援することにより、公民館活動を推進する。	B	22
公民館主催講座事業	子供から大人まで、それぞれの世代に応じた主催講座を開催する。	A	23・24
図書館管理運営事業	住民の多様な読書活動に応じることができるよう、きめ細やかなサービスを提供するとともに、快適な施設環境を整える。 また、小中学校と連携し、ガイドブックの作成や読書感想文コンクールを実施する。	A	25・26
図書館主催講座事業	文化講座、おはなしボランティア養成講座、親子絵本講座等を開催する。	B	27
蔵書整備事業	住民のニーズに応じた図書等資料の収集や情報の提供を行い、読書の推進や図書館の利用促進に努める。また、子育て世代を対象にした育児書・児童書の充実を図る。	A	28
ふるさと館管理運営事業	所蔵地域資料を効果的に活用した展示活動を行う。地域の歴史を学ぶ場として学校教育との連携を促進する。	A	29
人権教育事業	人権尊重の心を育むための講座等を開催する。	B	30

#### 評価

それぞれの施設の特性を活かし、住民の多様な学習ニーズに対応した事業を展開することができた。今後は、さらに各館の重点施策を明確にして事業を展開させていくことが重要である。

公民館

事業名

評価

公民館管理運営事業

B

事業の目的

生涯学習の場として、幅広い世代の住民へ学習機会や集会の場を提供することにより、教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与する。

事業内容

青少年育成講座及び定期講座等の、住民の自発的な生涯学習活動を支援することにより、公民館活動を推進する。

平成27年度目標

地域の「まなびの場」「つどいの場」として、地域住民から利用される施設となるための環境整備に努め、利用者の増加を目指す。

評価指標

- ・公民館延利用者数（数値目標：平成28年度（最終目標年度）120,000人）

事業評価

○公民館年間利用状況（※公民館事業は、主催講座と自主講座の年間延利用者数）（人）

利用者	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
公民館事業	70,514	72,366	72,489	75,783
一般利用	29,796	27,862	20,899	23,605
計	100,310	100,228	93,388	99,388

○自主講座在籍者数

- ・青少年健全育成講座

	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
講座数	21	21	19	18
在籍者数（人）	450	460	321	297

- ・定期講座

	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
講座数	125	120	115	111
在籍者数（人）	1,810	1,774	1,696	1,643

今後の方策

あらゆる機会をとらえて、高齢者、青少年、団塊の世代など各世代の社会参加を支援する。関係する団体と連携協調を図り、地域内の多様な人材の発掘に努め、運営面に反映させる。

なお、数値目標としての公民館延利用者数については、これまでの推移を考慮して、達成可能な設定とする。



事業の目的																																		
地域住民の多様な学習要求に応えるため、主催講座を開設する。																																		
事業内容																																		
子供から大人まで、それぞれの世代に応じた主催講座を開催する。																																		
平成27年度目標																																		
各世代のニーズに応じた主催講座を開催することで、主催講座の充実を図る。																																		
評価指標																																		
・主催講座の充実が図れたか。																																		
事業評価																																		
<p>・新規講座を複数開設するとともに、既存の講座については実施メニューを変更し、また、実施回数を増やすことにより、その内容を充実させた。</p> <p>○家庭教育支援事業（未来のまちのおせっかいさん養成講座） 地域リーダー養成講座を開催した。（詳細はP38「社会教育活性化支援事業」に再掲） （ワークショップ・企画会議を8回開催（参加者51人））</p> <p>○【新規】青少年育成事業（海田町歴史講座） 『かいた通（つう）になろう～ふるさとを学んで世界へはばたけ～』をテーマに、小学生とその保護者を対象にフィールドワークを中心とした体験型学習を展開。歴史探索と町歩きをコラボ、町の成り立ちや歴史を学習した。（開催回数5回、参加者24組59人）</p> <p>○【新規】男の料理教室 公民館に来館するきっかけとし、以後の自主的な公民館活動に繋げてもらうことを目的に実施した。（6講座41人）</p> <p>○【新規】こども季節の料理教室 親に対する感謝など、心身の健全な育成を図ることを目的に実施した。（6講座72人）</p> <p>○【新規】金融講座「1億円の重さを体験してみよう」 お金の持つ価値や意義、重要性について親子で学習（開催回数1回、参加者7組11人）</p> <p>○青少年育成事業（ジュニアサマースクール）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H24年度</th> <th>H25年度</th> <th>H26年度</th> <th>H27年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>講座数</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>14</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>参加者(人)</td> <td>285</td> <td>288</td> <td>273</td> <td>271</td> </tr> </tbody> </table> <p>○高齢者学級（寿大学、延寿大学）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H24年度</th> <th>H25年度</th> <th>H26年度</th> <th>H27年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>講座数</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>参加者(人)</td> <td>307</td> <td>396</td> <td>396</td> <td>223</td> </tr> </tbody> </table>						H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	講座数	13	13	14	15	参加者(人)	285	288	273	271		H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	講座数	2	2	2	2	参加者(人)	307	396	396	223
	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度																														
講座数	13	13	14	15																														
参加者(人)	285	288	273	271																														
	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度																														
講座数	2	2	2	2																														
参加者(人)	307	396	396	223																														

○パソコンルーム無料開放

	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
回数 (回)	12	12	12	12
参加者 (人)	114	117	124	129

今後の方策

引き続き、学習ニーズの把握に努め、主催講座の充実を図るとともに、中長期的な視点を持って今後の主催講座のあり方を検討する。

図書館

事業名

評価

図書館管理運営事業

A

事業の目的

住民が心豊かな生活を実現することができるよう、知の拠点として快適な読書環境を整え、住民の生涯学習や文化・教育、社会活動等の進展に寄与する。

事業内容

- ・住民の多様な読書活動に応えることができるよう、きめ細やかなサービスを提供するとともに、快適な施設環境を整える。
- ・小中学校と連携し、児童生徒用ガイドブックの作成や全児童生徒を対象とした読書感想文コンクールを実施する。

平成27年度目標

- ・開館30周年を記念して、図書館の歩みの振り返りや過去のベストリーダーなどの展示を行うほか、学校図書館司書と連携し読書感想文におすすめの本を展示することにより、読書活動及び図書館利用の促進を図る。
- ・利用者アンケートを実施することにより、利用の実態や満足度を把握し、今後の図書館運営に活かす。

評価指標

- ・利用者数 44,000人
- ・貸出冊数 150,000冊

事業評価

- ・レファレンスや貸出時のきめ細やかな対応などサービスの充実に努めたことや開館30周年事業等の広報への掲載、中国新聞に図書館の記事が掲載されたことによるPR効果等により、利用者数、貸出冊数ともに前年度に比べ微増したが、その他課題・問題点について創意工夫や改善を行うことができなかった。
- ・利用者アンケートでは、図書館に対する満足度は概ね良好であった。

○図書館利用者数（延べ人数） (人)

	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
利用者数	50,070	45,763	43,014	44,698

○図書館資料貸出冊数 ※（ ）内は、分館の実績 (冊)

	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
貸出冊数	172,882 (14,902)	154,291 (13,394)	149,517 (13,271)	155,513 (14,957)

○小中学生貸出冊数 (冊)

	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
貸出冊数	38,525	33,133	30,481	31,003

○利用者アンケート結果

	満足 やや満足 (%)	不満 やや不満 (%)	どちらともいえない, わからない, 無回答 (%)	計 (%)
施設(建物)	71	3	26	100
職員の対応	84	0	16	100

今後の方策

分館の貸出実績については、図書館の貸出実績と連動していると考えられることから、分館との連携を強化するとともに、小中学校とも密に連携し、情報の共有化や事業の広報を徹底し、図書館利用の促進を図る。

また、平成27年度末に行った利用者アンケートでは把握しきれなかった内容等について、再度利用者アンケートを実施し、今後の図書館管理運営に活かす。

事業の目的
子供から大人まで、読書する喜びや楽しさを伝える学習機会を提供する。
事業内容
文化講座、おはなしボランティア養成講座、親子絵本講座等を開催する。
平成27年度目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化講座、おはなしボランティア養成講座を開催し、読書推進や図書館の利用促進を図る。</li> <li>・新規ボランティアの募集や現ボランティアの資質の向上を図る。</li> </ul>
評価指標
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニーズに合った学習機会を提供できたか。</li> <li>・参加者が満足できる充実した内容であったか。</li> </ul>
事業評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・【文化講座】 小林いずみ氏(安田女子大学非常勤講師)による講演会「大人があけよう読書のとびら」を開催</li> <li>・【おはなしボランティア養成講座】 岡田公代氏(えほんくらぶ ぐりとぐら代表)による「おはなし会ってなあに」「絵本を選んでみよう・持ってみよう」(2回シリーズ)を開催</li> <li>・【親子絵本講座】 相原美恵子氏(ひろしまこども夢財団職員)を講師に2回開催</li> </ul> <p>どの講座も参加者が講師に熱心に質問する姿が見受けられ、概ね好評であったが、参加者数は前年度に比べ減少した。</p> <p>○参加者数</p> <p>【文化講座】18人</p> <p>【おはなしボランティア養成講座】(2回)延べ47人</p> <p>【親子絵本講座】(2回)延べ19組</p> <p>○新規ボランティアの登録者数</p> <p>学校訪問おはなし会 新規登録者 3人(うち、2人は平成28年度から活動中)</p>
今後の方策
<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民のニーズの把握に努め、各種講座内容を検討して実施する。</li> <li>・ボランティアに求められる能力・技術等の向上を目指すとともに、底上げが図れるよう講座内容を検討し実施する。</li> <li>・引き続き、ボランティアグループの育成に努める。</li> </ul>

図書館

事業名

蔵書整備事業

評価

A

#### 事業の目的

住民の多様なニーズに対応した図書等資料の整備を進め、住民に必要な情報提供や調査等の支援を行い、住民の生涯学習等の推進を図る。

#### 事業内容

- ・住民のニーズに応じた図書等資料の収集や情報の提供を行う。
- ・幼児・児童コーナーを活用し、児童向け資料や子育て世代を対象とした育児書等の充実を図る。

#### 平成27年度目標

- ・利用者のニーズを的確に把握し、各種選定資料を参考に広範なジャンルの図書を整備する。
- ・図書館新着図書リストの発行を月1回から月2回に増やすとともに、県立図書館の新着図書リストをロビーに設置し、利用者サービスを図る。
- ・幼児・児童コーナーを親子で利用できるよう、児童書や育児書等の整備を進める。

#### 評価指標

- ・リクエストによる資料整備状況
- ・児童向け図書資料の充実が図られたか。
- ・貸出冊数 150,000 冊

#### 事業評価

- ・県立図書館等との図書館間相互貸借制度を利用し、限られた予算の中でリクエストに応えながら、特定の領域に偏らせることなく蔵書を整備することができた。
- ・学校司書や読書ボランティアと連携し、児童に必要な図書を選定・購入し、児童の学習環境を整えることができた。

	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
図書館間相互貸借件数(借受)(件)	11	12	23	31
リクエストによる購入冊数(冊)	151	105	141	143
貸出冊数(冊)	172,882	154,291	149,517	155,513
蔵書冊数(冊)	123,785	122,537	124,347	126,602
蔵書冊数(児童書)(冊)	39,141	40,289	41,213	42,317

#### 今後の方策

- ・図書館職員の資質・能力の向上に努め、選書や書架の配置等を適切に行い、図書館の利用促進を図る。
- ・各分館のリクエストや要望等にも応えながら、蔵書整備を進める。
- ・幼児・児童コーナーの利用促進を図る。

ふるさと館

事業名

評価

ふるさと館管理運営事業

A

<b>事業の目的</b>				
地域の歴史や文化に関する資料の収集、保管、展示、調査研究及び教育普及活動等の事業を通じて、地域の歴史や文化に関する理解を深める。また、住民の生涯学習活動、コミュニティづくり及び発表の場として提供する。				
<b>事業内容</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・町所蔵資料について資料調査を行い、地域資料を生かした展示活動を行う。</li> <li>・地域学習や住民の学習成果発表の場を提供する。</li> </ul>				
<b>平成27年度目標</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・館所蔵の地域資料を効果的に活用し、展示内容を充実させる。</li> <li>・地域の歴史を学ぶ場として学校教育との連携を促進する。</li> </ul>				
<b>評価指標</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・所蔵資料を有効に活用し、展示内容を充実させることができたか。</li> <li>・学校教育との連携を促進することができたか。</li> </ul>				
<b>事業評価</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・織田幹雄氏関連資料の整理を継続し、企画展「織田幹雄生誕 110 年記念展」を開催した。展示終了後は常設展示に活用し、内容の更新を行った。また、他の町寄贈資料についても常設展示に活用し、展示替えを1回行った。</li> <li>・企画展「むかしのくらし展」については、展示内容を小学校3・4年の単元に即した内容とし、体験コーナーを設けた。その結果、町内外の小学校など9団体延べ456人が来館し、前年に比べ微増した。</li> <li>・常設展について、海田町グローバルキャンプや地域学習・歴史学習の場として、学校利用が増加した。</li> </ul>				
○学校利用回数（平成26年度7回，平成27年度13回）				
○来館者数 <span style="float:right">(人)</span>				
	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
来館者数	4,995	5,705	8,095	10,040
<b>今後の方策</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域資料の調査を継続し、展示替を複数回行い、展示内容の充実を図ることで、来館者の増加を目指す。</li> <li>・ふるさと館常設展示や所蔵資料を活用した学習用資料や体験プログラムについて、積極的に学校へ周知し、学校利用の促進を図る。</li> </ul>				

生涯学習課

事業名

人権教育事業

評価

B

事業の目的
すべての人々の人権が、尊重され共存する平和で豊かな社会を築くため、人権教育の推進を図る。
事業内容
人権尊重の心を育むための講座等を開催する。
平成27年度目標
事業等の実施を通して、住民の人権意識を高める。
評価指標
<ul style="list-style-type: none"><li>・他部局と連携し、人権啓発・教育事業に取り組めたか。</li><li>・参加者の増加が見込めるよう、工夫した事業内容となったか。</li></ul>
事業評価
<ul style="list-style-type: none"><li>・他部局・団体等と連携して、人権をテーマにした映画上映や講演会を開催した。</li><li>・事業内容が従来型の講演会の形式に止まり、参加者を増やすことができなかった。</li></ul> ○人権啓発映画鑑賞会（子供対象） 来場者 135 人 ○海田町ハートフル講演会「もうあの人のことで悩むのはやめる」 来場者数 43 人
今後の方策
<ul style="list-style-type: none"><li>・引き続き他部局と連携し、人権啓発・教育事業に取り組む。</li><li>・講座の実施にあたっては、参加体験型学習を取り入れるなど、参加しやすく理解の深まる内容となるよう努め、参加者の増加を目指していく。</li><li>・生涯学習関係職員の研修参加を促進し、各館事業において人権の視点を取り入れた運営を行うことを目指していく。</li></ul>



## 施策

### 地域文化の継承と創造

#### 取組みと成果

平成 27 年度も引き続き、住民が主体となって地域文化を守り、生かし、生み出す活動がおこなわれることを目指し、次のような取組みを行った。

- (1) 特に音楽の分野において、クラシックコンサートや文化団体等による様々なコンサートが開催され、住民が芸術文化に接する機会を多く提供した。
- (2) 海田町民文化振興会・海田町音楽祭実行委員会へそれぞれ補助金を交付し支援したことで、各団体が充実した事業運営を行い、地域文化振興を図ることができた。
- (3) 文化財の保存と活用を通して、地域の文化財に対する理解と関心が高まるよう努めた。

#### 重点的に取り組んだ事業

事業名	内容	評価	頁
クラシックコンサート事業	文化振興事業の一環として、NHK 交響楽団の団員・団友で構成される「エクシモン弦楽四重奏団」によるクラシックコンサートを開催する。	A	32
文化団体助成事業	各団体が主体的に文化振興事業を実施できるよう支援し、地域文化の振興を図る。	B	33
旧千葉家管理運営事業	旧千葉家住宅を文化財として適切に管理し、住宅及び庭園の公開を行い、地域の歴史や文化への理解を深める。	A	34

#### 評価

住民が主体となる文化活動を支援し、推進することができた。さらに活動が発展するよう新たな担い手となる住民を継続的に育成していく必要がある。芸術・歴史文化にふれる様々な機会を提供し、住民の理解と関心を深めることができた。

## 事業の目的

質の高い音楽を身近な場所で聴くことができる演奏会を開催し、より多くの住民に優れた芸術に接する機会を提供することで、芸術文化への関心を高める。

## 事業内容

文化振興事業の一環として、NHK 交響楽団の団員・団友で構成される「エクシモン弦楽四重奏団」によるクラシックコンサートを開催する。

## 平成27年度目標

来場者を増やし、より多くの住民に優れた芸術文化にふれあう機会を提供する。

## 評価指標

- ・アンケートの満足度を維持しつつ、新規の観衆を集めることができたか。
- ・コンサートの入場者数 対前年比 20%増

## 事業評価

- ・演奏会の内容について、広報紙を利用して積極的に広報を行ったところ、町内の来場者が 2.6 倍に増加し、新規来場者が 3 割となった。広報での認知が 1.6 倍になるなど、成果があった。
- ・アンケートでは、回答が得られた人の約 96%が「よかった」と回答し、満足度は維持できた。

## ○入場者数

(人)

	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
入場者数	180	140	151	191

## 今後の方策

優れた芸術文化にふれあう機会を提供する事業として、継続して実施していくが、引き続き来場者を増やし、満足度を高めるよう、会場設営や情報発信方法等の工夫・研究を行う。

<b>事業の目的</b>
住民が主体となって活動を行えるよう、文化団体を支援する。また、各団体の活動を通じて、地域文化の振興を図る。
<b>事業内容</b>
海田町民文化振興会・海田町音楽祭実行委員会へそれぞれ補助金を交付し、充実した事業運営が行えるよう支援する。
<b>平成27年度目標</b>
補助金の交付を通じて各団体の主体的な活動を支援することで、地域文化の振興を図る。
<b>評価指標</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・補助を行っている各団体が活動を主体的に行えているか。</li> <li>・補助金を適切に活用し、組織運営を行っているか。</li> </ul>
<b>事業評価</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・海田町民文化振興会については、音楽会や美術展の開催等を通じて、地域文化の振興に貢献している。特に和太鼓事業については、町内外に活躍の場を広げ、活動をアピールできた。一方、けんみん文化祭典・安芸地区フェスティバルなど、規模の大きな大会については、会員による主体的な運営は困難であった。会員数の増加も無く、組織として事業を主体的に実施することは年々困難な状況となっている。(会員数 11人)</li> <li>・海田町音楽祭実行委員会については、年2回の合同コンサートを開催し、町内の音楽文化振興に寄与している。また、事業の運営については、会員が主体となって行えた。(会員数 19団体)</li> <li>・平成27年度の各団体の活動は海田町の文化振興に貢献しており、社会教育委員会議においても、補助金の交付目的はほぼ達成できているとの評価を得ている。</li> </ul>
<b>今後の方策</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も事務局としての支援は継続するが、今後は、それぞれの団体が、現状や課題を把握しながら事業を実施できるよう、支援を行っていく。実施に当たっては、各会員が主体的に関わるよう、適切な助言や支援を行っていく。</li> <li>・海田町民文化振興会については、会の現状を踏まえ、今後の会の方向性など目的や事業内容について、文化協会への移行も視野に入れた、会員間の協議を促す。</li> </ul>

<b>事業の目的</b>				
広島県指定重要文化財旧千葉家住宅について、適切な運営を行い、地域の文化財としての理解と関心を高める。				
<b>事業内容</b>				
旧千葉家住宅を文化財として適切に管理し、住宅及び庭園の公開を行い、地域の歴史や文化への理解を深める。				
<b>平成27年度目標</b>				
文化財としての保存管理を図りつつ、公開を充実させる。				
<b>評価指標</b>				
・文化財として適切な保存管理を図りつつ、見学者数を増やすことができたか。				
<b>事業評価</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・月4回の一般公開に加え、随時団体見学を積極的に受け入れ、学校での見学もあるなど、見学者数は増加傾向となっている。</li> <li>・平成27年度は大規模な修繕もなく、計画的に室内の障子の張替などを行い、文化財保護とあわせて見学環境を整えた。</li> </ul>				
○旧千葉家住宅見学者数 (人)				
	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
見学者数	802	1,466	1,171	1,595
<b>今後の方策</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財としての適切な保存管理も視野に入れながら、引き続き公開を行う。</li> <li>・幅広い世代に地域の歴史文化に関心を深めてもらうため、学校見学を積極的に働きかける。</li> <li>・文化財として、また地域の歴史資源として、新たな魅力を創出する事業等の開催を検討する。</li> </ul>				

## 施策

子供が健やかに育つ環境の整備

### 取組みと成果

平成 27 年度も引き続き、子供が笑顔で希望を持ち、家庭や地域で育つことを目指し、次のような取組みを行った。

- (1) 放課後や休日等の子供たちの安全・安心な活動拠点（居場所）を設け、さまざまな体験活動を地域の協力を得て交流・実施することで、豊かな人間性を育んだ。これまでの成果をふまえ、ニーズに応じて学習支援への取組を新規事業として開始した。
- (2) 地域全体で学校教育を支援する体制づくりを推進することにより、住民等の学習成果の活用機会の拡充及び地域の教育力の活性化を図った。
- (3) 絵本との出会いを通して、家族の絆を深め、地域全体で子育てを支援した。

### 重点的に取り組んだ事業

事業名	内容	評価	頁
放課後子供教室事業	季節に応じた遊びや工作，食体験等のプログラムを月 3 回程度開催するとともに，小学生の学習支援を月 4 回程度開催する。	A	36
学校支援地域本部事業	各小中学校に配置したコーディネーターが，学校からの要請を受けてボランティアと連絡調整を行い，ボランティアが学校に出向き必要な支援を行う。	B	37
ブックスタート事業	地域に生まれたすべての赤ちゃんと保護者を対象として，保健センターや民生委員・児童委員との連携により，絵本を通した子育て支援を行う。また，連動した取組みとして「赤ちゃんのためのおはなし会」を実施する。	A	38

### 評価

地域や家庭，様々な人との関わりの中で，子供たちに様々な体験を提供することができた。より発展した活動を目指し，人材の確保に継続して取り組むとともに，ニーズの正確な把握に努めていく必要がある。

## 事業の目的

放課後や休日の子供たちの安全・安心な活動拠点（居場所）を設け、さまざまなあそびや体験活動を地域の方々や大学生の参画を得て実施することで、世代間交流により豊かな人間性を育む。

## 事業内容

- ・季節に応じた遊びや工作，食体験等のプログラムを月3回程度開催する。
- ・新規講座として，小学生の学習支援を月4回程度開催する。

## 平成27年度目標

- ・放課後や休日の子供が健やかに活動できるよう，より充実したプログラムを提供する。
- ・学習支援を主とした教室の活動を定着させる。

## 評価指標

- ・放課後や休日の子供の健やかな活動場所として，工夫されたプログラムを提供し，参加者数を増やすことができたか。
- ・新規講座について，活動を定着させ，安定した利用があったか。

## 事業評価

- ・地域のボランティアスタッフが積極的に関わり，プログラムの内容や開催場所についてリニューアルを図った結果，定期・特別プログラムについては，1回の教室で平均41人の児童の参加があり，参加児童数も順調に増加した。
- ・平成27年度は新規講座として，海田児童館で学習支援「学びの広場」を開始した。元教員によるスタッフが熱心に取り組み，毎回安定した利用があり，放課後や休日の活動として定着してきた。

## ○定期・特別プログラム（遊び・工作・レクリエーションなど）

	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
開催回数（回）	46	44	43	42
参加児童数（人） （1回あたりの人数）	1,253 (27.2)	1,279 (29.1)	1,374 (32.0)	1,722 (41.0)

## ○学びの広場（学習支援）

平成27年度（年45回開催） 参加児童数1,234人（1回当たり27.4人）

## 今後の方策

- ・今後も充実したプログラムを提供できるよう，スタッフとの連携を密にして，内容の更新を図りながら定期講座を展開していく。
- ・その他の講座については，時期やテーマの選択を適切に行い，より魅力的な内容となるよう努める。
- ・今後も福祉部局とも連携を図りながら，学習支援についても積極的に取り組んでいく。

## 事業の目的

地域全体で学校教育を支援する体制づくりを推進することにより、教員や地域の大人が子供と向き合う時間の増加、住民等の学習成果の活用機会の拡充及び地域の教育力の活性化を図る。

## 事業内容

各小中学校に配置したコーディネーターが、学校からの要請を受けてボランティアと連絡調整を行い、ボランティアが学校に出向き必要な支援を行う。

## 平成27年度目標

- ・コーディネーターの調整により、各学校へ登録ボランティアによる支援をスムーズに行う。
- ・学校のニーズ把握を行い、支援分野・回数を増やす。

## 評価指標

- ・コーディネーターの調整により、各学校へ必要な支援を行えたか。
- ・新たな支援分野を設定することができたか。

## 事業評価

- ・全校に支援は行えたが、コーディネーターの活動が少なく、学校とコーディネーターによる調整場面が少なかった。
- ・学校からの要望による部活動支援・校外活動支援など、登録ボランティアによる学校教育活動支援分野は増加した。

## ○コーディネーター活動時間 (時間)

	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
活動時間	5	30	33	14

## ○支援件数 (延べ件数) ※年間を通じての部活支援は含まない (件)

	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
支援件数	—	6	11	6

## ○登録者数

		H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
登録者数	個人	—	4	5	19
	団体	—	2	2	2

## 今後の方策

6校に対し3名の配置となっているコーディネーターの配置も含め、地域ボランティアによる「学校支援」の内容やそのあり方について、学校・地域・教育委員会事務局のそれぞれの役割を踏まえ、今後の方針を検討する。

図書館

事業名

評価

ブックスタート事業

A

<b>事業の目的</b>																			
赤ちゃんの保護者に対し、絵本の読み聞かせの大切さを伝えることにより、豊かな親子関係を築き、子供の心身の健全な発育を促す。																			
<b>事業内容</b>																			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に生まれた全ての赤ちゃんと保護者を対象に、保健センターや民生委員・児童委員との連携により、絵本を通じた子育て支援を行う。</li> <li>・連動した取組みとして「赤ちゃんのためのおはなし会」を実施する。</li> </ul>																			
<b>平成27年度目標</b>																			
ブックスタート事業開催時に保護者に対し、絵本の選び方や読み方相談に応じるなど、子育て支援関係の情報を提供し、図書館の利用を促す。																			
<b>評価指標</b>																			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の関係機関との連携のもと、絵本が手渡せたか。</li> <li>・対象の保護者と本との関係が創出できたか。(お話し会、図書館利用等)</li> </ul>																			
<b>事業評価</b>																			
<p>・保健センター、民生委員・児童委員との連携のもと、対象者全員に絵本を手渡すことができた。また、保護者と民生委員・児童委員とのつながりのきっかけづくり、保護者間の交流の促進、おはなし会への参加につなげることができた。</p> <p style="text-align: right;">(人)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H24 年度</th> <th>H25 年度</th> <th>H26 年度</th> <th>H27 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ブックスタート対象者（配布）数</td> <td style="text-align: center;">302</td> <td style="text-align: center;">313</td> <td style="text-align: center;">321</td> <td style="text-align: center;">321</td> </tr> <tr> <td>赤ちゃんのためのおはなし会参加者数</td> <td style="text-align: center;">370</td> <td style="text-align: center;">594</td> <td style="text-align: center;">708</td> <td style="text-align: center;">816</td> </tr> </tbody> </table>						H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度	ブックスタート対象者（配布）数	302	313	321	321	赤ちゃんのためのおはなし会参加者数	370	594	708	816
	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度															
ブックスタート対象者（配布）数	302	313	321	321															
赤ちゃんのためのおはなし会参加者数	370	594	708	816															
<b>今後の方策</b>																			
事業への参加を契機に図書館の継続的な利用につながるよう、子育てに関する本の情報提供や図書館事業等のPRなどを積極的に行う。																			



## 施策

心豊かでたくましい青少年の育成

### 取組みと成果

平成 27 年度は、豊かな人間性をもち、自ら考える青少年の育成を目指し、特に次のような取組みを行った。

- (1) 社会教育活性化支援事業において、地域で青少年を育むための、人材・団体の育成や、青少年活動の場の提供などに積極的に取り組み、活発な活動が行われた。
- (2) 青少年育成の観点から、各団体の活動を支援し、青少年の健全育成を推進した。

### 重点的に取り組んだ事業

事業名	内容	評価	頁
社会教育活性化支援事業	将来の地域リーダーを養成するための「未来のまちのおせっかいさん」養成講座を開設する。(ワークショップ・企画会議 8 回、まちの情報誌(追録版)作成)	B	40
青少年育成事業	青少年健全育成のため、啓発活動を行うとともに、青少年育成海田町民会議が充実した事業運営を行えるよう支援する。	A	41
成人祭事業	町主催の式典(第 1 部)を開催するとともに、新成人による成人祭実行委員会が、主体的に成人祭(第 2 部)を企画運営できるよう支援する。	A	42

### 評価

各事業に取り組むことで、青少年に対する家庭や地域の意識をより高めることができた。また、豊かな人間性を育ていけるよう、青少年が活躍する環境づくりを行った。

社会教育活性化支援事業については、ワークショップ・企画会議を通じて、まちについて更に学び、まちの情報誌(かいたっこ版)を作成した。

公民館

事業名

社会教育活性化支援事業

評価

B

<b>事業の目的</b>
低下した地域の教育力及び家庭教育力を再生するため、地域社会を変えていく自発的な住民リーダーとして「未来のまちのおせっかいさん」を養成する。
<b>事業内容</b>
将来の地域リーダーを養成するための「未来のまちのおせっかいさん」養成講座を開設する。 (ワークショップ・企画会議8回、まちの情報誌(追録版)を作成) なお、この事業は文部科学省からの委託事業「公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラム」として平成25・26年度に取り組んだ事業であるが、目標達成を目指し、町の主催事業として引き続き実施する。
<b>平成27年度目標</b>
・より自立した団体として継続して活動するために、今後の組織体制を検討する。 ・まちを知り、地域の課題・問題を把握するために、ワークショップ及び企画会議・情報誌作成を継続する。
<b>評価指標</b>
・より自立した団体として活動するための組織体制について方向性が出せたか。 ・ワークショップ・企画会議を開催し、情報誌を作成できたか。
<b>事業評価</b>
・今後の組織体制について、十分な検討が出来ず、方向性が出せなかった。 ○ワークショップ・企画会議を8回開催した。(参加人数51人) ○「海田町おせっかい情報誌(かいたっこ版)」を作成し、町内4小学校を通じて全児童に配布し、子育て目線の情報誌として同世代の子を持つ方々から高い評価を得た。
<b>今後の方策</b>
引き続き、より自立した団体として継続して活動するため、ワークショップを通じて学び、実践するとともに、新しい人材の発掘に努め、今後の組織体制を検討する。

<b>事業の目的</b>
次世代を担う子供や若者の健全育成を推進し、豊かな人間性をもつ自ら考える青少年を育てる。
<b>事業内容</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 青少年健全育成のため、啓発活動等を行う。</li> <li>・ 青少年育成海田町民会議へ補助金を交付し、充実した事業運営が行えるよう支援する。</li> </ul>
<b>平成27年度目標</b>
補助金の交付を通じて、青少年健全育成活動団体を支援し、地域における青少年健全育成活動を推進する。
<b>評価指標</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 啓発資料を活用した啓発活動を推進できたか。</li> <li>・ 青少年育成海田町民会議について、補助金を適切に活用し、組織運営を行っているか。</li> </ul>
<b>事業評価</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自治会や学校などへのぼり旗を配布し、青少年に対し、あいさつ運動や交通安全の啓発活動を行うことができた。</li> <li>・ 青少年育成海田町民会議は、啓発活動や青少年に対し直接働きかける事業を継続的に実施し、青少年健全育成について貢献しており、社会教育委員会においても、青少年の健全育成に取り組む団体を支援するという、補助金の交付目的は概ね達成できているとの評価を得ている。</li> </ul>
<b>今後の方策</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 啓発活動は、学校や青少年育成海田町民会議と連携して、継続して行っていく。</li> <li>・ 青少年育成という趣旨に沿った事業を今後も展開できるよう、青少年育成海田町民会議へ事務局として支援を行う。</li> </ul>

## 事業の目的

成人となった方へのお祝いと、これからの海田町を担う成人としての自覚を促す。

## 事業内容

町主催の式典（第1部）を開催するとともに、新成人による成人祭実行委員会へ補助金を交付し、成人祭（第2部）を企画運営できるよう支援する。

## 平成27年度目標

- ・第1部においては、厳粛な式典を行い、成人としての自覚を高める。
- ・第2部においては、新成人による実行委員会が企画・運営を行うことで、心に残る成人祭とするとともに、実行委員として町の事業にかかわることができる機会を提供する。

## 評価指標

- ・新成人が成人としての自覚を高めることができたか。
- ・新成人自身の参画による運営が行えたか。

## 事業評価

- ・第1部では、厳粛な式典を行うことで、参加者が新成人としての自覚をもち、真摯な態度で臨むことができた。
- ・新成人による実行委員会に補助金を交付し、新成人自ら企画運営する第2部を開催した。実行委員により自主的に取り組む姿が見られ、準備や片付けにも積極的に参加した。第1部式典では代表者2名が誓いの言葉を述べるなど、活躍の場が多く見られる充実した内容となった。

(人)

	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
対象者	304	280	314	264
出席者	215	193	209	195
	70.7%	68.9%	66.6%	73.9%

## 今後の方策

- ・成人祭実行委員会に補助金を交付し成人祭を開催することは、新成人にとって「自分たちの手で成人祭を開催する」という重要な意味がある。行政が一方的に式典のみを開催するよりも、成人としての自覚を高められ、社会参画の第一歩となることなど大きな成果があることから、今後も成人祭実行委員会による第2部の企画・運営を継続する。
- ・年度により特色ある運営ができるよう、指導が必要である。

## 施策

スポーツのまち・海田づくり

### 取組みと成果

平成 27 年度は、継続的なスポーツ活動による健康で活力あるまちづくりを目指し、次のような取組みを行った。

- (1) 各種大会、イベント等の実施により、住民が生涯にわたってさまざまなスポーツに親しんでいける環境づくりに取り組むことができた。
- (2) 海田町体育協会・海田町スポーツ少年団及び織田幹雄スポーツ振興会へそれぞれ補助金を交付し支援したことで、各団体が自立した事業運営を行うことができた。

### 重点的に取り組んだ事業

事業名	内容	評価	頁
生涯スポーツ振興事業	各種大会、イベント等の実施にあたり、住民がより気軽に参加しやすいものとなるようニーズの把握に努め、実施内容の検討を行った。	B	44
スポーツ団体等助成事業	各種団体が実施しているスポーツ活動の推進を支援し、住民の体力向上及び競技力の向上を図った。	B	45

### 評価

従来、競技性に重点をおいて事業に取り組んできたものを住民誰もが親しめるスポーツの振興に重点を移している中で、平成 27 年度は内容に変更を加えて実施した。また、競技性の高いスポーツ大会等については、交付した補助金を活用して体育協会やスポーツ少年団等が主催するとともに、各団体との協働により実施した。

今後とも、生涯スポーツと競技スポーツのバランスを保ちながら、住民が生涯にわたってさまざまなスポーツに親しんでいける生涯スポーツの環境づくりを目指す。

## 生涯学習課

## 事業名

## 評価

生涯スポーツ振興事業

B

## 事業の目的

住民が生涯にわたってさまざまなスポーツに親しんでいけるよう、生涯スポーツの普及に取り組む。

## 事業内容

年齢・性別を問わず、誰もが参加できるスポーツ大会・講習会を開催する。

## 平成 27 年度目標

誰もが気軽にスポーツ・レクリエーションに親しむことができる環境を整備し、生涯スポーツの普及に取り組む。

## 評価指標

- ・事業毎の参加者数 前年度以上
- ・事業内容の適切な見直しとその効果

## 事業評価

## ○ 各種事業参加者数 (人)

事業名	開催日	人数		
		H26 年度 (A)	H27 年度 (B)	増減 (B)-(A)
学校開放ふれあい事業	毎月第 3 日曜日	526	476	△50
プール開放事業	7/21～8/21	3,863	3,495	△368
子供スポーツ交流会	7/19 (日)	112	中止※1	—
スポーツ交流会 BVB※2 大会	8/30 (日)	中止	58	—
ふるさと再発見ウォークラリー	9/13 (日)	103	58	△45
体育の日記念 GG※3 大会	10/12 (月・祝)	中止	362	—

※1 雨天のため中止

※2 BVB：ビーチボールバレー

※3 GG：グランドゴルフ

## ○ 事業内容の適切な見直しとその効果

- ・平成 26 年度まで同日に開催していた BVB 大会と体育の日記念 GG 大会を別々に開催することで、大会運営に余裕が生まれ、円滑に実施することができた。
- ・ふるさと再発見ウォークラリーについては、スポーツ関係団体を中心に実施していたが、平成 27 年度は文化・歴史等様々なテーマで活動する団体と連携して実施したため、内容が充実した。一方で、多くの団体と調整した結果、暑い時期の開催となり、参加者数が伸び悩んだ。

※ プール開放事業については、悪天候のため開放日数が減少した。

## 今後の方策

- ・住民ニーズの的確な把握に努め、各種スポーツ大会を企画立案する。
- ・各種団体と連携をはかり、住民のスポーツ活動の機会拡充に努める。

生涯学習課

事業名

評価

スポーツ団体等助成事業

B

#### 事業の目的

各スポーツ団体の組織運営を支援する。また、各団体の活動を通じて、住民の体力向上や競技力向上に努める。

#### 事業内容

- ・海田町体育協会・海田町スポーツ少年団及び織田幹雄スポーツ振興会の各団体へそれぞれ補助金を交付し、充実した事業運営が行えるよう支援する。
- ・海田町名誉町民である織田幹雄氏の偉業を記念し行われる織田幹雄記念国際陸上競技大会に補助金を交付する。

#### 平成 27 年度目標

補助金の交付を通じて、各団体の活動を支援することで、住民の体力向上及び競技力向上を図る。

#### 評価指標

- ・補助を行っている各団体が自立した活動を行っているか。
- ・補助金を適切に活用し、組織運営を行っているか。

#### 事業評価

- ・3 団体 1 大会に対して補助金を交付した。(体育協会 1,010,000 円, スポーツ少年団 450,000 円, 織田幹雄スポーツ振興会 1,000,000 円, 織田幹雄記念陸上競技大会 500,000 円)
- ・各団体とも補助金を有効に活用して各種大会やイベントを実施しており, 社会教育委員会議においても, 住民の体力向上及びスポーツ活動の推進に対して貢献しているとの評価を得ている。
- ・織田幹雄記念陸上競技大会を除き, 各団体とも生涯学習課が事務局を担っており, 自立した組織運営が行えているとはいいがたい状況である。
- ・3 団体の共同で「スポーツ指導者講習会」を実施した。

#### 今後の方策

- ・補助金の交付を通じて住民のスポーツ活動の核となる各種団体の支援・育成を行うことで, 住民の体力向上及び競技力の向上を図る。
- ・引き続き共同イベント・講座等の実施を検討し, 各団体が抱える共通の課題等の解決を目指す。
- ・新海田公民館の整備にあわせて, ソフト面においても充実したスポーツ環境を整備するため, 既存の組織の統合等による新体制の構築について検討する。

## 学校教育課

海田町の学校教育の基本理念である『「夢を持ち、夢を語ることのできる」児童生徒の育成』を目指して教育活動を進めてきた。

平成 27 年度は、広島県が策定した「広島版『学びの変革』アクション・プラン」に即し、児童生徒の主体的な学びによる確かな学力の定着を目指して授業改善を進めてきた結果、特に学力面で大きな成果が見られた。また、学校施設の耐震化の完了や防犯カメラの設置など、教育環境の整備について、充実を図ることができた。

### 【平成 27 年度新規事業】

- ・ 防犯カメラ設置事業
- ・ 理科教育設備整備事業
- ・ タブレットを活用した指導力向上事業
- ・ グローバル人材育成事業
- ・ 海田南小学校体育館耐震補強等工事
- ・ 海田中学校北・中校舎棟耐震補強等工事

## 生涯学習課

『「人がつながり、夢を育む」生涯学習の推進』を図ることを目標に、住民一人ひとりが様々なスポーツに親しみ、優れた芸術文化に触れる機会の提供に努めた。

平成 27 年度は、それぞれの事業の特性・課題等を認識した上で、数年先の展望を意識した事業展開を図るよう努めたが、平成 28 年度以降もこの姿勢が必要である。

地域コミュニティを再生させるため、地域のリーダーを育成することを目的として実施した社会教育活性化事業については、開始から 3 年目となった。より充実した事業展開とするとともに、将来の自立した組織体制のあり方についても検討を進めていく。



## 評価委員の点検・評価

平成28年度海田町教育委員会点検・評価報告書案（平成27年度対象）について、平成28年9月28日に海田公民館においてヒアリングを実施しました。事業や年度の目標、評価指標の適切性、評価結果の根拠、評価方法や事業評価の判断基準・解釈の適切性、新規事業の有無、今後の方策の不明な点や疑問点などを提起しました。

また、今回のヒアリングの中で、とくに次のことが話題となりました。

1 地域のリーダーの育成やボランティアグループの育成がこれからの大きな課題であること

2 21世紀型能力の育成、学校安全ボランティア、地域ボランティアによる「学校支援」など、学校教育課と生涯学習課の連携がこれから重要となる課題が増えてきており、そのための対応や体制を中長期的な視点を持って考えていく必要があること

ヒアリングを踏まえて評価結果の変更や補足などをおこなった報告書案の修正版が10月24日付けで外部評価員のもとに送付され、その修正箇所について確認しました。

その結果、平成28年度海田町教育委員会点検・評価（平成27年度対象）は適切であると判断します。

外部評価員

広島大学大学院教育学研究科

教授 曾余田 浩史